

オアシス新聞

第十八号

カエルの歌が聞こえてくるよ(ガマ編)

3月に入り陽だまりはポカポカと暖かく、木の芽も少しずつですがふくらんできたようです。まるで北風で縮こまっていた体から力を抜いて、ウーンと伸びをしているようです。

そうはいつてもまだまだ寒い日も多く、菜の花やツクシが始めて「春だなあ」と人間が思っても、生き物たちの姿はなかなか目にしません。成虫越冬した昆虫がちらほらと見られる程度です。

そんな中、水辺からにぎやかな声が聞こえてきます。ククク、コッコッコ。二ワトリの声にちょっと似ています。これはヒキガエルの声です。まだ水が冷たい2月頃から、繁殖期を迎えたヒキガエルたちが山から下りて集まってきます。1匹のメスに複数のオスが群がる「ガマ合戦」。何十、何百という個体が集まって繰り広げられるガマ合戦は、ちょっとグロテスクであり、ちょっと壮観とも言えます。

早春に繁殖を終えたヒキガエルは、まだエサも少なく寒いため、再び春眠につきます。水辺に産み付けられた卵のうは長いロープ状で、十日ほどすると孵化しますが、この時はまだ眼もあいていない未熟な黒い「物体」です。その後おなじみのオタマジャクシの姿になり、やがて足が出て手が出てしっぽが縮み、オタマジャクシからカエルとなります。その時の大きさはなんと1cm位のミニカエル。これならカエル嫌いの人でも思わず「かわいく」なんて言ってしまいます。ヒキガエルは繁殖期と幼生期以外は山の中で暮らしているので、水辺を離れたミニカエルは山の中ですくすく育ち、再び繁殖のために水辺を訪れる頃には、15cm前後の大物になって戻ってきます。

不気味なヒキガエルの生態に、ちょっと興味が出てきましたか？

